



Patent Search Grand Prix

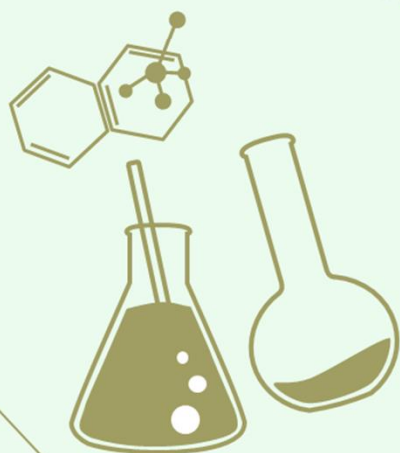
# 特許検索競技大会 Patent Search Grand Prix

Mechanical  
Field



Electrical  
Field

Chemical and  
Pharmaceutical  
Field



特別誌

最優秀賞受賞者  
三分野ゴールド制覇賞受賞者  
ゴールド認定者に聞く！  
サーチャーの極意

2022大会 上位認定者

8名の猛者たちからのメッセージ！

## 本誌発行にあたって

2007年に大阪で始まり、2013年より工業所有権協力センター（IPCC）の主催で実施されている特許検索競技大会は年々参加者が増えており、2022年度にはアドバンストコースに239名、スチューデントコースに556名の参加がありました。この大会が特許調査を生業とする皆様の間に着し、目標の1つとなっていることは、非常に喜ばしいことです。

さて、IPCC主催になってからは、アドバンストコースで成績に応じたレベル認定（ゴールド、シルバー、ブロンズ）を行っております。このレベル認定を受けることを目指して、多くの方々が本大会にチャレンジされています。ゴールド認定は非常に狭き門となっていますが、2022大会では8名の猛者がゴールド認定を受けています。この中には、検索式がダントツに評価された最優秀賞受賞者と、全選択分野（電気、機械、化学・医薬の3分野）でゴールド認定を受けた初の三分野ゴールド制覇賞受賞者がいらっしゃいます。8名の猛者から特許検索競技大会との向き合い方や日々のスキルアップへの活用方法等について、熱い想いを伺いましたので紹介いたします。

これから特許検索競技大会に参加してみようと検討されている方や、これまで参加してレベル認定を目指してきた方にも参考になる内容ですので、是非ご一読いただくとともに、次回の大会にご参加いただけると幸いです。

2023年6月

特許検索競技大会実行委員会

委員長 金澤 祐孝

【株式会社IHI 技術開発本部 知的財産部】

## 特許検索競技大会

### 日本で唯一、特許調査の実務能力を評価する大会

大会には、学生や企業の研究者等、知財業務初級者向け問題のスチューデントコースと、特許調査に必要な知識・技能を有し、特許調査業務等を実施しているプロ向け問題のアドバンストコースのレベルが異なる2コースがあります。

成績（採点結果）が一定のレベルをクリアした方には、認定証を交付します。

学生・研究者等初心者向け  
スチューデントコース  
● 認定

上級者向け  
アドバンストコース  
3レベル

- ゴールド認定
- シルバー認定
- ブロンズ認定



大会風景





# 特許検索競技大会2022 ゴールド認定者

2022大会のゴールド認定者8名に大会の感想や大会攻略法を伺いました。



掲載順序は50音順

## 伊坪 香織 Kaori Itsubo

株式会社発明通信社

> 機械分野

大会参加時に時間が不足しないようにするためにどのようなことを意識していますか？

調査の引き出しをなるべく多くしておくことを意識しています。最初に予備調査で近いものを見つけられるかどうかで、その年の成績が決まるようなところがあると感じています。

良い調査をするために重要なことは？

調査では発明のポイントを捉えることと、適切な検索式を選択できることの二つが重要で両方の足並みが揃っていないと良い調査ができないと感じています。



## 浦山 曜 Aki Urayama

アズテック株式会社

> 機械分野

良い調査をするために重要なことは？

技術を正確に把握することを心がけています。誤った認識のまま進むとその先の調査が破綻してしまうので、序盤の技術理解に時間をかけるようにしています。

特許検索をしていて充実感を感じる場面は？

出願前、無効資料調査でX文献を見つけた時や進歩性ロジックを組み立てられた時、お客様から良いフィードバックを頂けた時に、心血を注ぐことの意義を感じます。



## 小笠原 康裕 Yasuhiro Ogasawara 株式会社アイピーテクノ > 機械分野

大会に参加してみてどうでしたか？

参加してみると、実務に直結した問題であり有益でした。出題される問題が特許調査そのものなので、自分のためになっていると感じられます。

スキルアップセミナーに参加してどうでしたか？

スキルアップセミナーの内容は普段の業務にすごく役立ったと感じています。セミナー後の懇親会で他の参加者と情報交換をして様々なノウハウを知ることができました。



## 筧 きよみ Kiyomi Kakehi

トヨタテクニカル  
ディベロップメント株式会社 > 化学・医薬分野

### 大会に向けてどのような対策を取りましたか？

社内の検索競技大会経験者による勉強会に参加したり、数年分の過去問に取り組み、大会に臨みました。

### 今後に向けてどのように取り組んでいく予定ですか？

自分が馴染みのない分野の案件も多いので、式を構築するスキルも重要だと思うのですが、技術をきちんと把握する能力もしっかり身に付けていきたいと思っています。



## 工藤 真未 Mami Kudo

アズテック株式会社 > 化学・医薬分野

### 大会の大問はどのような順番で取り組んでいますか？

基礎がわかっているならば正答できる問題である問1、3を最初に取り組み、できるだけ素早く対応して、最後に問2を最低2時間かけられるように進めています。

### 集中力を維持するためにどのように工夫していますか？

集中力がもたないので、一時間に一回ちょっと目を閉じて休憩しています。リフレッシュしてから見ると、注意力が戻っていると感じます。



最優秀賞

## 藤田 容子 Yoko Fujita

アズテック株式会社 > 化学・医薬分野

### 大会の大問はどのような順番で取り組んでいますか？

問1、問3、問2の順で解いています。問1は予め勉強しておくことで解答を素早くできるように準備しています。

### 問2の問題を効率的に解答していくためにどのような工夫をしていますか？

問2は、重要なキーワードなどを用いて濃い文献集合を作り、そこから優先的に読むと調査を効率化できると感じています。



## 淵田 成美 Narumi Fuchita

トヨタテクニカル  
ディベロップメント株式会社 > 化学・医薬分野

### 問2の問題を効率的に解答していくためにどのような工夫をしていますか？

予備検索でできるだけ近い文献をピックアップするようにしています。先に近い文献を発見できると、それよりも遠い文献を落とす作業にできるので、スクリーニングの速度を上げることができると感じています。

### 今後に向けてどのように取り組んでいく予定ですか？

得意な技術分野を広げていきたいと考えています。



## 宮本 裕史 Yasushi Miyamoto

富士フイルム  
知財情報リサーチ株式会社 > 電気分野

### 特許検索をしていて充実感を感じる場面は？

分類も用いて検索していますが、本当にこれよく見つけたなと自分で褒めたいような文獻は分類でなくキーワード検索で見つけたものが多いような気がしています。

### 大会の大問はどのような順番で取り組んでいますか？

問2、問3、問1の順で解いています。試験時間が長く、集中力が低下していくので、最初に集中力が一番必要な問題に対応しています。



三分野ゴールド  
制覇賞



## 最優秀賞受賞者・三分野ゴールド制覇賞受賞者との座談会

2022大会最優秀賞受賞の工藤真未氏、初の三分野ゴールド制覇賞を受賞した宮本裕史氏、大会実行委員長の金澤祐孝氏、IPCC副理事長（当時）の櫻井孝の4名で座談会を実施し、特許サーチャーとしてスキルをどのようにして磨いてきたか、特許検索競技大会をどのように活用してきたのかなどを、じっくり伺いました。（役職は当時のものです）

### 大会参加歴と参加のきっかけ

櫻井：特許検索競技大会の参加歴について教えてください。



工藤：2013年にアズテックに入社し、2014年から大会に参加しています。コロナで中止になった2020年を除いて毎年参加し、化学・医薬分野をずっと選択してきました。



櫻井：参加のきっかけは？上司から勧められたのでしょうか？

工藤：入社した頃に大会がリニューアルされ、チーム戦が設けられて話題になっていたのに興味を持ちました。大会に参加することで、他の会社の方と知り合えるし、今の自分の実力を知ることができるのではないかと考えていました。社内でも沢山の人が受験していて、ゴールド認定を受けている人もおり、会社のバックアップもあったので、自分から受けてみることにしました。

櫻井：それでチャレンジされ、ブロンズ、シルバー、ゴールドとステップアップされてきたんですね。宮本さんはいかがですか。

宮本：12年前に今の所属会社が立ち上がり、サーチャーになりました。その1年後から毎年受験しており、今回11回目の受験でした。経験の長さだけでなく、自分の客観的な実力を知りたいと思い受験してきました。良い認定を取れた時は会社に報告するといった感じです。



一同：（笑）



### サーチャーとしての普段の業務

櫻井：工藤さんの検索式はダントツで分かりやすく、満場一致で最優秀賞となったと伺いましたが、金澤委員長コメントいただけますか？

金澤：委員の皆さんが一致した意見でした。会社で指導がされているのかもしれませんが、わかりやすい検索式で、検索者の意図がつかみやすいところが高い評価につながっていました。受験者全体で見ますと、検索者の意図がつかみにくい検索式も多く、解読するのに苦労することがあります。また、解答に記載された検索の戦略の説明とも整合していないように見えるケースもあり、採点時に悩まされます。



櫻井：クライアントさんに鍛えられているのでしょうか？

工藤：検索式を提示するときに、このような意図で検索式を作成しましたという一言を必ず添えるようにしています。顧客がサーチャーさんのケースでは、式の意図を汲み取っていただき、わかっただけです。この分類を使ったのはなぜですか、このような概念を掛けたのはなぜですかといった問い合わせをいただき、やり取りをするケースもあります。

櫻井：宮本さんは自社案件の無効調査がご専門ですよね。社内でサーチャー結果をご説明されることはあるのでしょうか？

宮本：調査結果の説明はあまりませんが、研究者や知財部の誰か読んでわかりやすい報告書の作成を心がけています。一方、依頼者に対する調査前のヒアリングは、調査方針に大きく影響するので非常に重視しています。

櫻井：サーチャーさんの中でも社内でランクがあるのでしょうか？

宮本：最近社内で、本大会での受賞レベルに応じサーチャーとしての特別呼称が付与されることになりました。私は三分野ゴールド制覇賞を頂いたので「エグゼクティブサーチャー」となります。







## 過去問集を活用した大会対策

櫻井：最初に特許検索競技大会にチャレンジしたときはいかがでしたか？

工藤：結果を見た時にすぐに閉じてしまうくらい、散々な結果でした。問1ができなかったのが敗因でした。まだまだ実力不足でした。

宮本：表彰までには至らなかった最初の1, 2回は良い成績だったのですが、その後3, 4回目は成績が下がってきました。我流に陥ってしまったためか、伸び悩んでしまいました。このときに検索競技大会の模範解答を必死に研究して、これを参考に自分のスタイルを変えていったことで実力が伸びてきたように感じています。特許検索競技大会は、表彰や認定だけでなく特許検索の実務にも役立つものだと考えています。

櫻井：過去問集が役に立っているのは発行している側としては非常に嬉しいことです。さて、最初に特許検索競技大会に参加した後、ステップアップしていくにあたって取り組んだことがあれば教えてください。

工藤：実は、前回2019年の最優秀賞を受賞した橋間が上司で、二人で対策を練りながら、指導を受けてきました。2回目を受けた時にブロンズが取れましたが、3回目は0.3点足りず認定を受けることができなかったため、何が足りないかを見直すことにしました。詰めが甘いところがあることを再認識したため、このような点に気をつけよう、このような情報も押さえておこうと、自分で改善を進めていった結果、2017から2019年まで連続でシルバーを取ることができて成績が安定してきました。日頃の仕事の中でも、大会に参加していく中でも、自分がつまづくポイントは同じところでしたので、ここは気を付けていかなければいけないと意識するようになりました。



## 特許検索結果に対するフィードバック

櫻井：特許検索競技大会では結果がフィードバックされますが、日ごろの仕事でもフィードバックがあるのでしょうか？フィードバックがない場合に自分の欠点に気づくことができるのでしょうか？

工藤：お客さんからフィードバックを得られることは多くありません。弊社の場合はお客さんに検索式を提出してこの母集団を対象とすることでよいか確認して合意を得てから各文献を査読しているため、査読中にこのワードも入れた方が良かったとか、この分類を使った方が良かったかなといった自分の中での気付きがあるケースがあります。そこで、次はこうしようかなといったことを考えています。特許検索競技大会は自分がどのくらいのレベルにいるのか、自分の弱いところはどこなのかといったところを把握するツールになっています。過去問集も橋間と二人で活用してきました。特に問1が苦手であったため、問1を徹底的に研究したこともありました。橋間から引っ張り上げてもらったところがあるので、今後は自分が先輩を引っ張り上げていきたいと思っています。

宮本：過去問集の活用以外では、無効化資料調査のチームの中で時々実施している自主的な研修があります。チームの一人が出題者となり、異議申立や無効審判の証拠となっているX文献を探す問題を出題して、他の者が検索し、見つけた人が次の出題者となっていきます。答え合わせをして、検索者同士で検索式を見比べていくと学びがあります。ただ、実務と直接関係がないため、忙しい中では実施が難しい側面があります。

## 最優秀賞を受賞して

櫻井：最優秀賞の受賞を知った時の感想を教えてください。

工藤：IPCから届いた大会の結果に関する書類を開封して、ゴールドだとわかった時に、社内のチャットで上司の橋間に報告しました。偏差値を聞かれて、70を超えていたと答えた時に、最優秀賞と書いていないか聞かれ、よく見ると書類にさっと「最優秀賞」と書いてあることに気づき、しばらく震えが止まらなくなりました。

櫻井：感激していただけたようで何よりです。三分野ゴールド制覇への挑戦はいかがですか？

工藤：化学・医薬しか受験したことがなく、普段の仕事も化学系の企業の仕事を中心にしてはいますが、化学系の企業でも機械や電気の案件があるため、他の分野にも挑戦していきたいです。





## 史上初の三分野ゴールド制覇賞を受賞して

櫻井：コロナの前から三分野ゴールドに王手をかけた二分野ゴールド取得者が9名いたわけですが、三分野ゴールドがそろそろ出るぞ出るぞと言っている間にコロナになってしまい、再開した最初の特許検索競技大会で三分野ゴールドを宮本さんが取得されました。何人も候補がいる中でお一人だけということでした。

宮本：一人だけということに驚きました。その点は上司に聞かれることが予想されたので、三分野ゴールドを取得したことをご連絡いただいた際に最初に私だけですと聞いてしまいました。実際に上司に報告した際にも、最初にその点を聞かれました。

櫻井：三分野ゴールド制覇はどのような点が大変でしたか。専門の化学だけでなく、他の分野でも高得点を取るのは大変だったと思います。

宮本：化学・医薬でゴールドを取った後、同じ分野で連続してゴールドが取れないことになったため、次に機械で受けたところうまくゴールドを取ることができました。二分野のゴールドを取れたことで、三分野ゴールドを意識し始めました。電気は細かい処理の流れを目で追う必要があるところが多く、中身を読み込む必要があるため難しく感じました。機械は初回にゴールドを取ることができましたが、電気はなかなかゴールドを取ることができずにいました。電気ですぐ受けた今回は、あまりいい出来でないような印象を持っていましたが、むしろ出来がいいと思った時には点が取れていないことが多いように感じています。

櫻井：自分が良いと思っている時はそうでもなく、自信がないときに評価されるとなると、その辺に改善の余地があるのかもしれない。特許検索競技大会は長時間の試験となるため集中力が必要になりますよね。受賞者に若手が多かったのはその辺も影響しているのでしょうか。

宮本：試験の最後の方になってくると、集中力が切れてくるためか、普段ではやらないようなことをしてしまうことがあるのが自分でもわかります。普段はここまで集中し続けていることはないため、集中力が切れてしまう前に、問2を先に解いておくようにしています。

櫻井：宮本さんは化学・医薬から入られて、機械、電気と広がっていかれたので、工藤さんも三分野ゴールド制覇を目指して頑張っていたかと思いますが、ディフェンディングチャンピオンとして期待しています。



## 後進の育成に向けて

櫻井：後進の育成に向けて取り組んでいることはありますか。

宮本：指導は日頃からやっています。検索スキルというよりも、無効化資料調査であればクレーム解釈、発明の本質理解といったところに重きを置くようにして、指導しています。対象特許の中身をよく読むこと、審査過程の拒絶理由、意見書などもしっかりチェックすることなどを指摘しています。依頼者へのヒアリングも重要で、技術内容を確認したり、クレーム解釈を確認したりするところもおおそかにしないよう指導しています。そういったコミュニケーションは重要です。

工藤：未経験で入ってくる人も多いので、ベースとなる部分の教育は会社を挙げて、新人が入ってくる度にチームを組んで実施しています。お客さんの目的に合わせてどのように調査を設計していくか、このような依頼が来たらどのように動けばよいといったところを会得できるように指導しています。無効資料調査だからとか、お客さんがこう言っているからといったところではなく、依頼内容に合わせて目的を達成するためにプロサーチャーとしてどのように貢献できるかを考えるように指導しています。私もまだまだなので、一緒にそれを考えています。

## これからの参加者へのメッセージ

櫻井：これから大会に参加する人に伝えたいことはありますか。

宮本：知財の人は、例えば化学の人なら化学以外は分かりませんといった感じで、業務範囲を狭めていることが多い気がするのですが、やってみたら意外とできる気がしますので、専門とかにこだわらずに取り組んでいく方が良いと思います。

以前、私は写真フィルムの研究者でしたが、特許公報を読んだり、人の話を聞いたりしていくことで理解を広げていき、いろんな分野を克服してきました。三分野ゴールド制覇に向けて、若い人にもぜひ挑戦していただきたいと思います。

工藤：自分の実力に自信がなくて、大会に参加しないという選択を取ってしまう方がいらっしゃると思うのですが、もっと気軽に受けてほしいと思います。宮本さんは最初から良い成績だったようですが、私はバタンと閉じたいような成績から始まっているので、成績を気にせず皆さんにどんどん受けて頂き、大会を盛り上げて頂きたいと思っています。

櫻井：大会に参加してスキルアップし、普段の実務にそれを活かしていければ、みんながハッピーになりますね。今日はありがとうございました。



一般財団法人工業所有権協力センターでは、  
公益目的事業として特許検索競技大会を主催しております。



〒135-0042

東京都江東区木場1-2-15

深川ギャザリア ウエスト 3 棟

企画室企画部 電話 03-6665-7877

メール [kikaku-bu@ipcc.or.jp](mailto:kikaku-bu@ipcc.or.jp)



特許検索競技大会特設サイト

<https://www.ipcc.or.jp/contest/>



2023.06